様式第２号（第４条関係）

豊明市行政評価制度　「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業

● 第５次行政改革大綱第１次実施計画との関連　有　・　無	
☐ 有 ☑ 無	

１■事務事業の概要

１－１事務事業の名称	ブックスタート事業（主要事業）						
１－２担当	部	健康福祉部	課又は施設	健康課	係	母子保健係	評価票作成者	母子保健担当係長　平野幸子

１－３総合計画における施策の体系	①節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」	③基本施策	母子保健	コード	2―1―2
			④単位施策(中)	子育て中の親に対する支援	コード	2―1―2― 3
	②項	健康	⑤単位施策(小)	子育て情報提供の充実	コード	2―1―2―4―3
１－４事務事業の目的の精査	対象と対象の数	３か月児健診受診児	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	絵本を通して親子のふれあいの時間の楽しさや大切さを実感し、日常の子育てに活かすことができる。		
１－５事務事業の内容	３か月健診時に、「読み聞かせ」ボランティアグループが実際に親子に読み聞かせの場を体験してもらう。ブックスタートセットを渡し、家での赤ちゃんと絵本との出合いを作る。					

２■事務事業実施の状況

２－１事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度	当事業は１７年度から開始しているが、今年度は特に改善すべき点もなく継続実施している。	少子化や核家族化等の影響もあり育児経験が少ない親が増え、子どもとのかかわり方がわからない親も増えている。	ブックスタートを知らなかった人もこの事業を通してその意義を理解し日常生活に取り入れるなど認識が高まった。
平成19年度	図書館スタッフと相談し絵本の見直しを図った。	〃	〃
平成20年度	読み聞かせボランティアグループの協力を得て、継続実施した。	〃	ブックスタート事業の定着で手持ちの絵本との重複などで、一部の親から絵本の選択性をとの意見も出されるようになっている。
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

２－２総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(回)	前期目標値(回)	指標の説明
	ブックスタート事業実施回数	24	24	子どもとの関わり方がわからない親に絵本を通して親子のふれあいの時間の楽しさや大切さを伝える。子育て支援や情報提供の充実度を表す指標　年間実施回数　【資料】とよあけの保健

２－３成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	活動実績ａ（単位）	635（人）	627（人）	614（人）							
	直接事業費ｂ（千円）	1,200	1,203	1,119							
	人件費ｃ（千円）	739	692	692							
	合計コストｄ(ｂ＋ｃ)（千円）	1,939	1,895	1,811							
	単位コストｄ／ａ（千円）	参加組当たり　3	参加組当たり　3	参加組当たり　3	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 【直接事業費】消耗品（ブックスタートセット等）1,198,430円　【人件費】　216時間　3,200円×216時間=691,200円　活動実績は、ブックスタート参加組数

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（回）	24	24	24							
	後期目標値に対する達成度（%）	100.0	100	100.0							

３■事務事業の自己評価結果

３－1　評価結果（アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度担当課評価	A	A	A							

● ４段階評価結果 A ： 上位目的である施策に貢献しているので継続する
B ： 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C ： 縮小等、事務事業としての見直しが必要
D ： 事務事業の廃止が相当

● 判断の基準 ①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

３－２評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	子どもとのかかわり方がわからない親は増加すると思われ、今後はさらに関係機関との連携やＮＰＯ等との協働体制が重要となる。	方法等は変えないが、配布する絵本等は年々更新を図る。	事業実施後の対象者の感想を伺うアンケートも実施したが、好評を得ており日常生活にも活かされていることもわかり有意義な事業と感じている。
	平成19年度	〃	概ね2年ごとに絵本の見直しを図る。20年度は継続。	図書館とボランティアグループの協力により円滑に実施している。
	平成20年度	乳児期の早い段階での絵本との係わりを大切にし、親子関係の醸成を図る。	２１年度に向け、絵本の見直しを進める。	〃
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

４■事務事業の総合評価結果

４－１総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		